

(雜 錄) ○ *Thompsonia* シャコにも寄生す ○ 鳥の友情 (新著紹介) ○ 新刊圖書

四〇

● *Thompsonia* シャコにも寄生す

Thompsonia と云ふ奇怪な根頭類 (本誌第二十三卷 (七一頁参照)) は從來蟹 (*Melita*, *Pilumnus*, *Thalamita*, *Actaea*) や蝦 (*Alpheus*) に寄生して居る者が知られて居るが、中澤毅一氏の長門から採集されたシャコ (*Squilla oratoria*) に此者の寄生されて居る者がある。

因に従来は此寄生蟲は宿主の體面にある小囊の各個が一疋の個蟲である如く思はれて居たけれども、一九一五年に PORTS の研究した者を見ると、此考は全く誤りで、一疋の宿主に寄生して居る全體が一つの個蟲である。そして宿主の體中に擴つて居る根の如き蟲體から恰も菌絲から蕈が生える様に多くの囊状態が出来る者である。従つて此各個の囊状態は蟲體の主部ではなく、却つて根の如き部分がそれである譯になると云ふ。

以前日本から採集された *Thompsonia* 即ち前記の本誌第二十三卷七一九頁に紹介の出で居る者は *Thompsonia japonica* と命名されて居るが、自分の採集した者は果して同種であるかどうかは分らない。尙竹下政之助氏も三崎産の蟹で此寄生蟲に附かれて居る者を採集せられた事がある。 (駒井卓)

● 鳥の友情

予の郷里は山間の僻地である。今から十一年前の一九〇六年の正月歸省の折、一日降雪甚だしく積ること二尺

餘に及んだ、山國の常としてかゝる時には小鳥(五十雀、四十雀、目白、柄長等) は群をなして人家附近に飛來して餌を求め。丁度その日鳥群の襲來せるを幸、鳥糞を附けた小さな棒を漆の實の房と十字字なりに括り竿の尖端に着けて裏庭の梅林中に密かに立てゝ置いた。所が三羽の柄長 *Acedura trivittata*? が鳥糞に附着した、それを籠に入れて飼育せんとしたが、父の戒に因つて不本意乍ら放つてやつた、三羽中一羽は能く飛び去つたが他の二羽は鳥糞の附いてゐるのと翼の損じたのとのために飛び去る事が出来なかつた、そこで三間程の高さに在る枝に止らせて置いた所が同胞數羽飛び來り助け去らんと努力した、かくの如き一種の友情と云ふべき(?) 本能が鳥類にかくまで發揮せらるゝものかと驚いた。

(中本大二)

新著紹介

● 新刊圖書 (五)

(42) SMITH B. G., '17, "Laboratory guide for the study of the Frog—an introduction to anatomy, histology and physiology" (第二版 State Normal College, Ypsilanti, Michigan) 著者宛六十仙を送れば一冊を得べし)

(43) WEST, G. S., '16, "Algae (Mycophyceae, Peridinieae, Bacillariae, Chlorophyceae)" (十五圖)(植物學者のみならず動物學者にも必要なり)